

平成24年度事業報告

(1) 法人

1. 人事異動 職員の新規採用に関して

障害者総合支援法では、平成26年4月1日をもって「グループホームに統一」（ケアホームの廃止）が計画されています。特に、高齢化対策においては、グループホームとヘルパーステーション(居宅介護事業)の連携が必要となると判断され、その準備のために、グループホーム及び日中一時支援（移動支援を含む）の人材強化を図る予定で、職員採用を実施しました。しかし、ご家庭の事情によりグループホームの管理者・サービス管理者が、他県に引っ越すこととなってしまったため、初期の目的を達成できませんでした。

2. 高齢化対策の実践

高齢化対策の一つの柱と位置付けてきました「短期入所サクラダ」は緊急時対応と高齢化によるグループホームへの移行という二つの面で、大きな役割を發揮できました。年度途中から「長期にわたる」短期入所の利用があり、1室塞がった状態が続いています。グループホームが定員一杯となってしまったための長期利用であり、「短期入所」の出口対策が必要となってきたことを示すものでした。

3. 職員の資質向上に向けての研修振興

法人や各単位における研修以外に、それぞれの立場で自主的な研修をお願いしてきたところです。そのような自主的な研修にぶどうの里後援会より「研修補助」として、各自に135,000円を超える補助をいただきました。補助をいただいた職員は延べ人数で60名を超え、自分で課題を見つけて研修を受けるという当法人の方針の後押しをしていただきました。なお、補助等を受けることなく、「精神保健福祉士」や「介護福祉士」等の資格を取得しましたとの報告もあり、深く研修している職員の存在は、当法人の根幹をなすものです。

4. 法人創立20周年記念行事の開催

平成24年9月29日に記念のセレモニーを実施いたしました。また、10月23日～25日にかけて東北地方被災地への20周年旅行も実施いたしました。

(2) 施設

1. 安全・健康管理・防災の徹底

研修時に必要な職員には普通救命講習Ⅱを実施しました。更に法上の設置を求められていない施設においても防火管理者研修の受講も進めております。衛生推進者の配置に関しては25年度を受講申し込みを実施しました。

2. 環境整備

一歩ずつですが、環境整備を進めてまいりました。特に園芸療法との連携が進められていることが評価できます。

3. 音楽療法や園芸療法の自力での実施

音楽療法はほぼ自力での実施となりました。

4. 勝沼授産園は以下の事業を実施しました。

- 生活介護事業 (定員10名)
- 就労移行支援事業 (定員6名)
- 就労継続支援A型事業 (定員15名)
- リサイクルショップキューブの運営

24年度は、就労継続支援A型定員を5名増やし、10名の雇用を持続して最低賃金の確保と同時に、非雇用の皆さんにも規定以上の工賃を支払えるように努力してまいりました。栄養士の指導のもと、完全内部調理で、さらに安全で安心、おいしい食事の提供を実現できるようになってきました。2週間単位での献立発表も実施できました。農地をお借りして園芸療法に取り組み、時に給食食材を提供できたり、環境整備に力を発揮できました。

就労移行支援利用者のうち就労し、24年度中に6か月以上勤務している方は3名。就労継続支援A型から就労し、6か月以上勤務している方は2名でした。

5. 山梨授産園は以下の事業を実施しました。

- 生活介護事業 (定員10名)
- 就労継続支援B型事業 (定員10名)

利用者の高齢化が進んでいますが、就労継続支援B型事業：時給258円、生活介護：日給300円を達成しました。

6. 石和授産園（山梨授産園の分場）は以下の事業を実施しました。

- 生活介護事業 (定員10名)
- 就労継続支援B型事業 (定員2名)

平成25年度事業として、石和授産園の本園化を図り、建物等の更新を実施しようという補助金の申請を行いました。残念ながら国の予算がつかず、補助を実施できないとの連絡がありました。

7. 塩山授産園は以下の事業を実施しました。

- 就労継続支援B型事業 (定員20名)

地域活動支援センター「すいーとはうす塩山」の利用者と勝沼授産園就労継続支援B型から移行した利用者の融和が進んだ一年でした。県内最低賃金の1/3を目標にし、時給：235円（ボーナスを含まず）と目標を超過達成しました。

8. すきっぷは日中一時支援を継続しつつ以下の事業を実施しました。

- 放課後等デイサービス（あくしゅ） (定員10名)

4月より放課後等デイサービスとして新しいスタートを切りました。ご家族からのご要望にこたえるべく活動してまいりましたが、定員10名のため、ご要望にこたえきれない状況が続いています。

9. グループホーム・ケアホームは以下の事業を計画・実施しました。

- 4から5人程度の共同住居の新設・エクセレントサクラダA：定員4名を新設しました。また、中央荘を移転しました。
- 介護事業の開始に備えて、日中一時支援・移動支援等の責任者を決めましたが、勝沼授産園からの事業移転はできませんでした。

(3) その他

1. 地域福祉への貢献

県の「介護雇用プログラム」を利用して2名の雇用拡大を実施できました。プログラム終了後も引き続き勤務していただく予定です。

2. 海外発展途上国援助活動の推進・拡大

インドで児童福祉活動を続け一時帰国された、渋谷律子さんへの支援活動を推進しました。すでにインドに戻られ、活動を継続されています。

フィリピン等の児童への衣類発送に引き続き取り組みました。